

ある むぜお

府中市郷土の森博物館だより

al museo

2020年12月20日

No.134



東府中駅付近を疾走する2区の聖火ランナー（1964年10月8日 東府中駅付近）

もくじ

- 1-2 1964 東京オリンピックと府中
その3…聖火 府中市内を走破
- 3 最近の発掘調査
国府東方で発見した大型掘立柱建物跡
- 4-5 NOTE
宮本常一が府中から考えた観光のこと、
博物館のこと
- 6 府中の史料に見る 江戸時代の流行病
③種痘の普及に尽力した蘭方医
- 7 府中の都市動物 BLACK LIST ②
暗闇でドッキリ
- 8 平成史に残る天文・宇宙イベント
⑦しし座流星群、大出現！

1964 東京オリンピックと府中

2020年には本来、2回目となる東京オリンピックが開催される予定でした。残念ながら世界的なコロナ禍によって延期となってしまいましたが、今後への期待を込めて、1回目の東京オリンピックと府中とのかかわりを4回シリーズで紹介します。

その3 聖火 府中市内を走破

上の写真は、小金井街道沿いの府中第二小学校前で聖火を引き継いだ2区のランナーが、新甲州街道（国道20号線）を疾走する様子です。正走者の小嶺実さん（当時20歳）を先頭に、2名の副走者と中学生から20歳までの若者20名で構成された随走者が続きます。随走者各々は五輪マークの印刷された小旗を持って走り、その旗は3区の随走者にリレーされました。

1964 東京オリンピックと府中

その3…

聖火 府中市内を走破

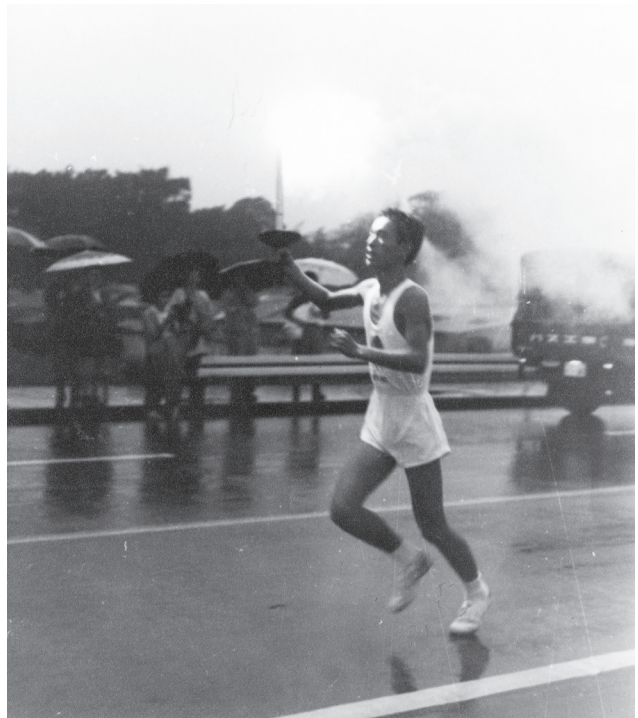
10月8日16時22分に府中市に引き継がれた聖火は、雨の中市内を進んでいきました。1区のランナーは小金井街道を約2km走り、府中第二小学校前のバス停付近で2区にリレーしました。2区は小金井街道入口交差点を左折し、新甲州街道（国道20号線）を新宿方面に走りました。

正走者や副走者は当時陸上競技で実績のあった若者が選ばれていましたから、かなりのスピードで走っていました。しかし、各区分20名の随走者の中には中学生もあり、遅れないようについていくのがやっとだった人もいたといいます。

2区から3区への中継点は、約2.3km先の染屋八幡神社前（白糸台）でした。3区の正走者は当時高校生だった高木秀男さんです。高木さんは中継直後に撮影されたと思われる写真をお持ちです。その裏面には「昭和39年10月8日雨天染屋八幡前にて、PM4時49分」と記されていました。この情報をもとにすると、聖火が市内を走り始めてから3区に到達するまで、30分弱しかかかっていないことになります。

3区のランナーはそのまま新甲州街道を約2.1km走り、府中市を出て調布市内の中継点に到達しました。正確な時間は分かりませんが、17時をまわっていたようで、あたりはうす暗くなり街灯が点灯していました。聖火は調布市長等を介して調布市のランナーへと無事引き継がれました。

その後も雨は降り続いていましたが、聖火リレーは続けられ、調布市から三鷹市、武蔵野市へと引き継がれたところでその日は終了。翌9日に練馬区、新宿区等を経由して、当時千代田区にあった東京都庁に到着しました。そしてその日のうちに皇居前に運ばれ、集火式が行なわれました。そこで、日本国内を4コースに分けて移動していた聖火が1つにまとまりました。翌10日のオリンピック開会式当日、晴天のなか、聖火は無事に国立競技場にもたらされたのです。



3区を走る正走者・高木秀男さん（本人所蔵）。撮影は2区との中継点付近。

こうして15日間にわたる東京オリンピックの幕が開きました。ランナー達の手を介し、多摩地域をほぼ1日で駆けぬけた聖火は、沿道の人々にも強烈な印象を残しました。府中市内の沿道では、当時雨だったにもかかわらず3万人以上の人出があったといいます。

閉会式2日後にあたる10月26日の夕方、市役所で解団式が行われ、府中市の聖火ランナーはその役割を終えました。その日彼らには聖火リレー参加を証するバッチが手渡され、集合写真や支給されたユニフォーム等とともに、聖火リレー参加の記念品となったのでした。（佐藤智敬）

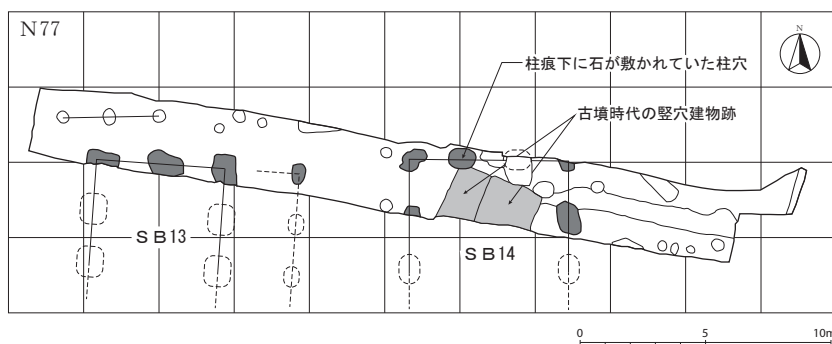


調布市内の中継点（現在の東京スタジアム前）に到着した3区のランナーと、それを待つ調布市のランナー。聖火はここで引き継がれた。この場所はマラソンの折返し予定地点でもあったため「TURNING POINT MARATHON」と記された標識も写っている。

国府東方で発見した

大型掘立柱建物跡

八幡町三丁目 府中市ふるさと文化財課 野田憲一郎



大型掘立柱建物跡 SB13・SB14 全体図

奈良・平安時代の大型掘立柱建物は、武蔵国府の中心施設である国衙だけでなく、国府のマチの各所でも見つかっています。なかには溝で囲まれた区画の中にあるものもあり、庁舎や国司館などがマチの中に点在していたことがうかがえます。

今回、掘立柱建物跡を発見した発掘現場は、日吉体育館の東側で、国衙跡から南東へ1 kmほど離れた場所です。東西2間×南北1間以上のSB13と、東西3間×南北2間以上のSB14が見つかりました。どちらも調査範囲外へ及んでいて、全貌は明らかではありませんが、SB13は東西に3基の柱穴が並び、柱穴の大きさは長軸1.1～1.4 m、短軸1.0 m、柱の間隔は2.5 mと大型建物の様相を呈しています。SB14は東西に4基の柱穴が並び、南北は2基見つかりました。柱穴の大きさは長軸1.0～1.3 m、短軸0.58～0.78 mとSB13よりも若干小ぶりですが、柱の間隔はSB13と同じく2.5 mを測ります。これらの柱穴と柱間の規模は、国衙域に見られる大型掘立柱建物跡に匹敵するといっても過言ではありません。さらに、SB13・14の柱穴には柱の痕跡が重複していることから、建て替えが行われたと推測でき、建物が長い間存続していたことがわかります。

また、SB14の柱穴1基の底には、直径15～20 cmの扁平な河原石が6個敷かれていました。この石は、柱の下に設置することで柱の沈下を防いだものと考えられます。なぜこの柱だけに設置されたかは疑問ですが、この建物は、倉庫のように荷重に耐える必要があったのかもしれません。

国府東方では、竪穴建物跡の密集が武蔵国府八幡宮（八幡町2丁目）の付近で減少することから、マチの広がりはこのあたりまでと考えています。武蔵国府八幡宮の周辺では、これまでも大型の掘立柱建物跡や倉庫と想定される総柱建物跡などが見つかり、何らかの官衙施設があったのではないかと注目されています。今回発見した大型掘立柱建物跡は武蔵国府八幡宮からさらに東に位置しますが、この場所に官衙に匹敵する建物が建て替えられながら存続していたことは、国府東方の建物群の性格を考えるうえで、重要な情報が追加されたと言えるでしょう。



底面に河原石が据えられたSB14の柱穴

宮本常一が府中から考えた 観光のこと、博物館のこと



お祭りのない府中の街（2020年5月4日午後）
太鼓の響宴と山車の行列があるはずだった。

▼ コロナ禍のなかの観光

日本政府が2003年に「観光立国」を宣言して以降、みるみるうちに成果があがり、インバウンドの急増は逆にオーバーツーリズムの問題を引き起こしました。昨年、隣国と外交関係がこじれて影響が出ていた頃は、まだ序の口で、本年になると新型コロナがたちまち拡大して、観光そのものが一気にダウンしてしまいました。近年はどの自治体も観光振興を謳うようになり、各地の博物館もこうした機運に乗り社会的な使命を果たそうとしていた矢先の出来事でした。そんな折、わが府中ゆかりの民俗学者・宮本常一（1907～1981年）の観光に関する著作を読み直してみることを思い立ちました。

▼ 旅と観光の民俗学者

民俗学は庶民生活の慣習や伝承から伝統文化を明らかにする学問ですが、宮本常一は各地の地域振興にも力を発揮した稀有な民俗学者として知られています。山口県周防大島が宮本の故郷ですが、1961年には、調査の旅から帰る家を東京都府中市に求めました。生涯に歩いた距離は地球4周分にもなるそうですが、歩きながら書いたとしか思えない膨大な量の著作も残しています。代

表作の『忘れられた日本人』『家郷の訓』（岩波文庫）ばかりではなく、どの文章にも、昭和の日本が活写され、時に中世を彷彿とさせる歴史を垣間み、また先見性のある明快な批評にも出会い、読者を唸らせます。『宮本常一著作集18 旅と観光』（未来社1975年）と『宮本常一講演選集5 旅と観光』（農文協2014年）を繙けば、宮本が観光振興についても真剣に考え実践していた民俗学者であったことを知ることができます。

▼ 観光のための文化と博物館づくり

前者の本に「九州の観光資源とその将来」（1968年初出）という小編が掲載されています。九州の観光関係者に対する講演録のようで、宮本の観光に対する考えが明らかにされています。まずは観光資源の発掘。資源は豊富でも観光対象にはなっていない。地元のことをよく知ること、観光開発による自然や景観の破壊を戒めながら観光対象を整備する必要を述べます。また、日本人はもともと旅好きであること。参拝旅行が中心で、苦勞や遠出自体が目的であったこと。それを後押ししたのが弁当持参や荷を背負う習慣であったとの指摘もあります。そのうえで具体的な方法は…。

「九州ではいろいろ古い文化を持っておりますが、この文化がやっぱり生かされるべきじゃなかろうかと考えるのです。(中略) 島原というところは、もとはたいへん貧しいところであったといわれております。先ほど申しました唐行き^{からゆき}さんが一番多く出ていったのは、島原であります。そして若い娘が身を粉にして働いておった。その島原が最近観光地になった。特に島原市では島原城を再建しましてあそこに非常にりっぱな天守閣ができております。さて、あの天守閣ができるまで、島原のあたりにキリシタンの遺物、遺品というものがどの程度あるかわからなかったのですが、あそこへ、いま集めてたくさん展示しております。」「そういうようなものを皆さんがその気になって、集めてくれる。そして展示する。展示する場所を持つ。そういうことになると、それを目当てに人がやってくるのであります。」「日本にはいい博物館がありませんが、もし皆さん方が、それぞれの土地でりっぱな博物館をおつくりになれば、必ず観光客というものはそこへ集まってくるのじゃないか、そう考えられる。」「日本からわざわざパリーのルーブル博物館へ見物に行く人すらあるのでございます。その国の文化の高さ、その地方の文化の高さを知ろうとするならば、まず博物館へ行けということがヨーロッパにはあるそうではありますが、日本にはないのでございます。」

宮本は観光対象となる歴史の話題として、天草^{あま}・島原のキリシタン文化のことばかりではなく、「唐行きさん」(九州から東南アジア方面への出稼^{げんきゆう}ぎ女性)のことに言及しています。今でいうダークツーリズムの視点も想定されているようです。さらに、地元の歴史資料を収集して展示をする博物館の必要性を訴えているのが特徴です。日本にはまだ博物館が少ない。その地域の文化を知るための博物館をつくらうではないか、ヨーロッパのように博物館見学が目的の観光地にしようではないかと言っているのです。

▼ 地元が楽しまなければ観光ではない

さらに重要なことは、観光客のためだけの観光地になってはダメだと繰り返し述べるところです。経済的効果ばかりではなく、地元の人に参加できる観光地でないといけない。地域の振興と観光の両立を宮本は描いていたのです。

「その観光地にもう一つ大事な条件がありまし

て、いままでの、今日までの観光地というのは、その地方の人たちはそこへ参加できないのが普通なんです。

つまりそこで、たんぼで草を取っている人たちは、指をくわえてそこへ来る人たちを見ているというのが普通になっている。そういう観光地はやがてはやはり衰えるんじゃないか。」「地元の人もその喜びに参加できる、遊びに参加できるようにすること、りっぱなものをつくって地元の人を排撃^{はいげき}して、よその者だけを迎え入れるというのは、これはほんとうの観光地の姿ではないと思うのです。」「すべての人がそこで楽しめるという体制をどこかへつくっておくということ、これが新しい観光地の根本問題じゃなかろうか。」

▼ 自分たちの街の観光開発

後者の本に収められた「熱海の観光政策を考える」(1978年初出)に次の一節があります。

「わたし、方々の観光地へまいりまして、その土地の人たちに「あなた方は自分の町のなかの観光資源をみんなご存じですか?」と、こういう席で聞いてみるんですが、手を挙げられる人というのは一割いないんですね。いま、わたしは東京都の府中市に住んでおりますけれども、とにかく文化財の専門委員だけは全部見て歩こうではないかと言って、毎年それを繰り返してやっておるのでございます。そのうちに一これは、ここでもおやりになるとおもしろいと思いますが、小学校の子供、中学の子供を動員しまして、郷土カルタというものをつくってみたのでございます。(中略) たとえば、いろはの「い」の場合は、「いちばん初めは武蔵^{むさし}の国府^{こくふ}」というんです。国府がどこにあるかというので、たいへん問題になりました。そのおかげで、いま国府の発掘がはじまっているのでございます。(中略) そういう郷土の文化の開発の方法というのは無数にあるのではないかと思います。」「これらは経済低成長の時代に相応しい、またコロナ禍^かのなかで言われるようになったマイクロツーリズムにも通じることです。



宮本常一の著書

府中の史料に見る

江戸時代の流行病

今回は、^{ほうそう てんねんとう}疱瘡（天然痘）の根絶に大きな役割を果たした^{ぎゅうとうしゅとう}牛痘種痘法についてのお話です。

これは、人間の^{じんとう}疱瘡（人痘）ではなく牛の^{ぎゅうとう}疱瘡（牛痘）から採取したワクチンを用いるものです。牛痘は人間にうつっても症状が軽く、感染者は^{じんとう}疱瘡にかからないことに注目したイギリスのジェンナーが、1798年、この開発に成功しました。

日本で牛痘種痘が始まるは、それから約50年後のことです。それ以前には、18世紀の半ばに中国から伝わった^{じんとう}人痘種痘がありましたが、^{じんとう}疱瘡のかさぶたを粉末にして^{びこう}鼻孔に入れるため、本当に^{りかん}罹患して死亡する危険性があり、安全な予防法とは言えませんでした。

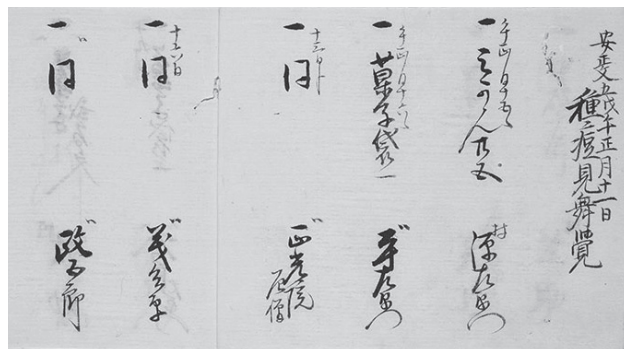
日本で初めて牛痘種痘の^{せつしゅ}接種を試みたのは、オランダ商館の医官として文政6年（1823）に来日したシーボルトです。ところが、このとき持ち込んだ^{びょう}牛痘苗（ワクチン）は、長期の移動の間に効力を失っており、役に立ちませんでした。

日本が有効な^{かえい}牛痘苗を入手するのは、それから約25年を経た嘉永2年（1849）6月のことです。佐賀藩がオランダから取り寄せ接種に成功、京都や大坂、江戸にもたらされ、だんだんと各地へ広がっていきます。

この際、普及に尽力したのは各地の^{らんぼうい}蘭方医たちですが、奇しくも日本で接種が始まった年、彼らにとって逆風となる法令が出されました。幕府の医官は、^{らんぼうい}蘭方を使用することを禁止されたのです。公的に^{めい}医術を否定されたような状況の下、大坂では^{もと}緒方洪庵、江戸では伊東玄朴らが^{げんぼく}種痘所の開設につとめました。結果として、大坂の^{あんせい}種痘所の幕府公認は設立から8年後の安政5年（1858）、江戸の^{かんさい}神田お玉が池に^{ろくしよくう}種痘所が誕生するのも同年を待たなければなりません。しかし、この間の^{おおくにたま}蘭方医の活動を通して、^{ちくご}種痘は庶民に知られていったのです。

ところで、伊東玄朴の^{むこ}婿養子で、ともに^{かんさい}種痘所の設立に関わった伊東^{ろくしよくう}貫斎は、六所宮（大國魂神社）の^{おおくにたま}禰宜をつとめていた^{ちくご}織田筑後の次男です。

③種痘の普及に尽力した蘭方医



「種痘接種の見舞帳」本宿小野宮 内藤治右衛門家文書
安政5年の正月に、8か月の男児が種痘を受けた際の見舞い品の記録。みかんや菓子袋などが贈られている。

兄の^{けんさい}研斎も蘭方医で、家督を継いで禰宜となった弟の^{ひょうぶ}兵部と父親の筑後も蘭方を学び、種痘の普及に一役かっています。

^{しばさき}柴崎村（立川市）の名主・^{なぬし}鈴木平九郎が記した『公私日記』の嘉永3年3月22日条に、府中の織田氏が柴崎村の下和田で「摸^{なぬし}疱瘡」を行うので、女性が大勢集まったとあります。この「摸^{なぬし}疱瘡」は種痘のこと、織田氏は筑後と兵部だと考えられ、牛痘苗の入手からわずか10か月後には両名による種痘接種が府中近隣で始まっていたことがわかります。実施が^{すみ}速やかだったのは、貫斎との繋がりによるものでしょう。

織田氏は府中の自宅でも接種を行っており、^{すみ}住吉町の旧家には織田氏のもとで子どもたちが種痘を受けた記録が残っています。嘉永3年には府中でも接種が始まったと思われますが、市内に残る史料で実施が確認できるのは5年ほど後の安政期からです。当時種痘が子どもに害をなすという悪評がたったという話もあるようですから、効果が認識され人々に受け入れられるには、少し時間が必要だったのかもしれませんが。ともあれ、その後牛痘種痘法は庶民に浸透し、^{なぬし}疱瘡による死亡者は減少しました。そしてついに1980年、WHO（世界保健機関）により天然痘の根絶宣言が出され、長きにわたった人類と^{なぬし}疱瘡の闘いは幕を閉じたのです。（花木知子）

府中の都市動物 BLACK LIST ②



暗闇でドッキリ

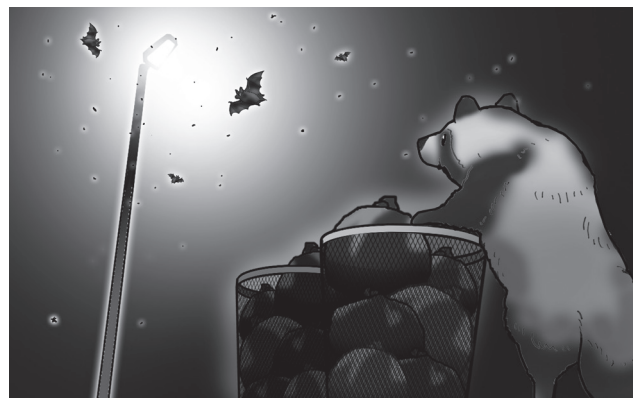
今回は、夜の市街地を徘徊する怪しい動物と、夕空を飛び交う不気味な鳥もどきを紹介しましょう。けもの偏に里と書く動物と言えど…そう、狸（タヌキ）、本来雑木林や田畑に囲まれた里山に暮らす動物です。かつて東京全域に里山環境が広がっていた頃は、中心部にも多くのタヌキが生息していましたが、60年代後半に差し掛かるあたりから退行が始まりました。都市の開発が進行し、丘陵地にまで及んだからです。但しこの段階では丘陵すべての開発には及ばず、まだ森林や田畑は残っていたため、彼らが逃げ込む余地があったのです。問題はその後続いた開発の波でした。やがて尾根は削られ、土砂が持ち去られるか、谷が埋められるかして丘陵地も平坦化していきます。これにより森林や田畑は消失し、樹木は斜面に沿った帯状にわずかに残る程度となり、里山を住处にしていた多くの動物は居場所を追われてしまいました。

ところが、意外にもしたたかなタヌキが出現しました。崩壊した里山環境から再び都市に戻る者がいたのです。彼らは元々林床部をごそごそと動き回り、果実や昆虫、ミミズなどを捕食する動物です。キツネのように巣穴を掘ることもなく、岩穴や木の洞、深い藪で繁殖します。行動範囲はさほど広くもなく、縄張りを主張するタイプでもありません。つまりは端的に言うと、食性、生活様式、社会関係のどれを取っても、ご都合主義の臨機応変な生き物だったのです。森林や田畑が減少したところで、それなりに十分暮らしていけると言うわけです。都市化した住宅地では、残されたわずかな雑木林がエサ場にも繁殖場にも利用できます。さらに庭先やゴミ捨て場では楽に食べ物が手に入り、床下や土管も繁殖場に適しています。生垣や側溝は移動通路として好都合です。何のことはない、都市は彼らにとって何ら支障のない里山に取って代わる空間だったのです。この習性から考えると、そもそも開発が進む都市部から逃げなかった者もいたのかも知れませ

ん。いずれにしてもタヌキは、23区内はもちろん、東京の市街地のどこでも目撃されるようになりました。夜の住宅街などで頻りに姿を現し、思わずギョッとさせられる近年話題の都市動物です。

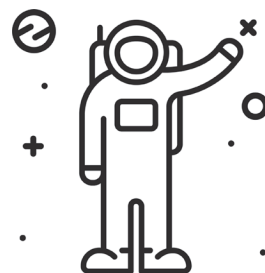
さて一方、夕方の空では奇妙な飛行物体を目にします。一瞬鳥と錯覚しますが、バタバタと翼を小刻みに動かしてせわしなく右往左往する様子は鳥とは別物。正体は人家の近くで生活し、イエコウモリとも呼ばれるアブラコウモリです。東アジアに生息する体長4～5cmの可愛い小型の種類です。夜の川面スレスレを飛び交い、ユスリカなどの小型昆虫を捕らえます。人の声や騒音溢れる都市においても、互いに発する超音波でコミュニケーションを取りながら暗闇で行動ができます。都市のヒートアイランド現象が注目された90年代から増えてきました。市街地の温暖化でエサの昆虫が大発生し、さらにはそれらが集まりやすい街灯などの明るい場所が都市には多いことで絶好の条件が揃ったのです。害虫駆除の役割を担う部分では有難いのですが、反面、温かく都合が良い家屋の隙間を休憩や子育てに利用することで人家に依存します。6～7月の出産期は、新陳代謝が盛んで糞や尿を多く排泄するため、住民には大変迷惑なのです。これはタヌキも同様で、人家の屋根裏や床下などに拠点を設け生活する例が多く見られ、これまた苦情件数が増えているのです。

正体がわかっていても、闇の中からいきなり飛び出してくれば少々びっくり。よくよく見れば結構可愛らしくもありますが、さすがに同居は勘弁して欲しいものです。但しこれも我々人間のご都合主義。どうして？ 元来彼らの居住地だった里山環境を奪い、人工物溢れる都市に変えてしまったのは我々の方なのですから…。 （中村武史）



平成史に残る天文・宇宙イベント

⑦しし座流星群、大出現！



平成 13 年（2001）11 月 18 日から 19 日にかけて、しし座流星群が大出現し、日本中を驚かせました。当時、私もヒュンヒュン流れるたくさんの流れ星を見て、感動したことを覚えています。11 月 19 日の未明には、府中でも 1 時間に 100 個を超える流れ星が見られたようです。

ところで、流れ星とは一体何なのでしょう？ その正体は、ほとんどが宇宙を漂う数 mm 程度の塵です。それらが地球に飛び込んでくると、大気と衝突し光ります。これが地上から流れ星として見えるのです。

流れ星は 1 時間に 2 ～ 3 個ほど毎晩どこかで観察できますが、毎年決まって、同じ時期にたくさんの流れ星が見られることがあります。これが「流星群」です。

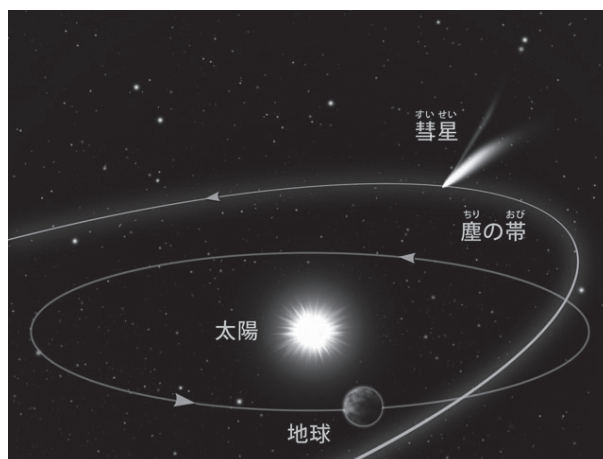
流星群の流れ星は、太陽系の旅人「彗星」がまき散らした塵です。流星群のお母さん（母天体）は彗星なのです。彗星はほとんどが氷で、中に塵が含まれているため、「汚れた雪玉」に譬えられます。彗星は太陽に近づくと表面が溶けて、たくさんの塵をまき散らします。まき散らされた塵の集団は、彗星の軌道上を密集したまま公転しています。そして、右下図のように彗星の軌道と地球の軌道が交わって、地球がそこを横切ると、塵が地球の大気に飛び込んできます。地球に飛び込んでくる塵は、同じ方向から平行にやってきますが、それを地上から見ると、流れ星が空の一点から四方八方に放射状に飛び出してくるように見えるのです。その点のことを放射点と呼び、その放射点のある星座の名前をとって「〇〇座流星群」といいます。

地球が彗星の軌道を横切るタイミングは、ほぼ決まっているので、毎年決まった時期に流星群は現れます。しし座流星群は毎年 11 月 18 日ごろにピークを迎えます。母天体は、テンペ

ル・タットル彗星。約 33 年の周期で太陽の周りを回っていて、彗星の周辺に塵が集中しているため、しし座流星群は約 33 年ごとに活発に活動しています。次回、テンペル・タットル彗星が太陽に接近するのは、2031 年。流星群の出現を予測するのは難しいですが、そのころにしし座流星群が大出現するのか、期待したいと思います。

ちなみに、毎年 1 月 4 日ごろには三大流星群のひとつ、しぶんぎ座流星群がピークを迎えます。「しぶんぎ座」は、現在は存在しない星座の「壁面四分儀座」のことで、りゅう座とうしかい座のあたりにありました。その近くに、この流星群の放射点があるため、名称だけが残っているのです。

流れ星を観察する時は、できるだけ街明りが少なく空が広く見渡せる場所を選び、寝転がるなど楽な姿勢で眺めてみてください。なるべく長時間にわたって夜空を観察すると、1 年の最初を飾るしぶんぎ座流星群の流れ星が見えるかもしれません。（上野アイ子）



彗星の塵の帯と地球の軌道の図
提供：国立天文台 天文情報センター